

# 保険・年金 フォーカス

## 年金改革ウォッチ 2021年8月号

～ポイント解説:2022年4月開始の年金簡易試算Web

年金総合リサーチセンター公的年金調査室長・上席研究員 中嶋 邦夫  
(03)3512-1859 nakasima@nli-research.co.jp

### 1 —— 先月までの動き

年金広報検討会は、「見える化」に向けた取り組みとして年金簡易試算Webについて議論した。資金運用部会は、年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)の2020年度業務実績評価について議論した。

#### ○年金広報検討会

7月1日(第11回) 個々人の年金の「見える化」のための取り組み

URL [https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000212815\\_00025.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000212815_00025.html) (資料)

#### ○社会保障審議会 資金運用部会

7月30日(第17回) GPIFの令和2年度業務実績評価

URL [https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_20198.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_20198.html) (資料)

### 2 —— ポイント解説:2022年4月開始の年金簡易試算Web

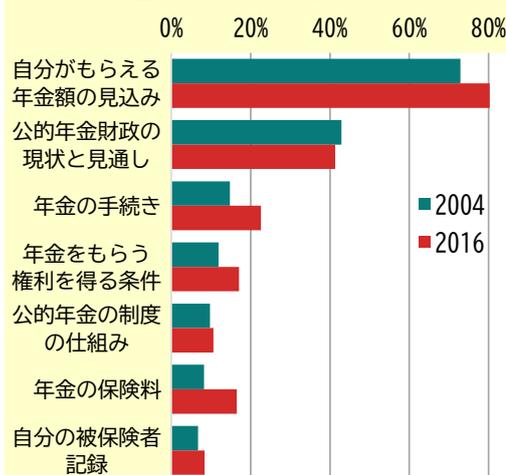
先月の年金広報検討会では、年金見込額を簡単に試算できるWebアプリ「年金簡易試算Web」が議題となった。本稿では、検討の経緯や現状を確認した上で、今後への期待を考察する。

#### 1 | 経緯:2022年4月開始(目標)が閣議決定

「自分がもらえる年金額の見込み」は、年金について以前から多くの人に関心を持つ項目である。政府は、以前は社会保険事務所(現在の年金事務所)で照会した58歳以上の人へのみ見込額を提供していたが、2004年から対象者を拡大し、2009年からは「ねんきん定期便」、2011年からは「ねんきんネット」で全加入者へ提供してきた\*1。

その後、英国における「年金ダッシュボード」(Pension Dashboard)の検討などが日本でも注目され\*2、

図表1 年金について知りたいこと



(注1) 3つまでの複数回答。主な選択肢を抜粋。  
(資料) 厚生労働省「公的年金加入状況等調査」(各年)

\* 年金改革ウォッチは、毎月第1火曜日に連載(祝日は休載)。

\*1 詳細は、拙稿「政府と加入者のコミュニケーションのあり方」および「個人宛通知による年金情報提供の強化」、ねんきん定期便・ねんきんネット・年金通帳等に関する検討会(2011.8.9)資料2、を参照。

\*2 例えば、2019年10月に村井英樹衆議院議員が「人生100年時代 「公的年金」と「年金ダッシュボード」の可能性」と題して講演している。

2019年12月に取りまとめられた**社会保障審議会年金部会の報告書**や**同企業年金・個人年金部会の報告書**に、公的年金や私的年金等について個々人の現在の状況と将来の見通しを全体として「見える化」する必要性が盛り込まれた。

これらを受けて、厚生労働省は**2020年7月の年金広報検討会**で、スマホ用「年金アプリ(公式)」の検討状況と2020年度に開発し2021年度に運用実験を行う予定を示した。その後、**2021年3月の同検討会**で、スマホ用アプリではなくWebアプリとすることと、2021年度前半に試作版を開発しテストを経て2022年4月に運用を開始する予定を示し、さらに**今回の検討会**では、この取り組みが閣議決定に盛り込まれたことと\*3、画面イメージなどを提示した。

## 2 | 現状：結果の表示方法をはじめ、課題が山積

スマホ用アプリからWebアプリへと変更されたが、「ねんきん定期便」に印刷されたQRコードを読み込んで試算に必要な情報を得る点と、試算結果をCSVファイルで出力して民間アプリと連携する点は維持されている。

今回の検討会では、画面設計についてかなり多くの意見が委員から出た。例えば、画面上部に常に表示される試算結果の部分については、円グラフでは年金額の増減を感じにくい、受給期間も分かる表示にすべき、老齢年金だけでなく遺族年金や障害年金も示すべき、といった意見が出た。また、スクロール表示される試算前提の部分については、給与などをスライドバー形式で設定可能にすべき、給与と賞与を統合すべき、などの意見が出た。

## 3 | 期待：事前登録不要などの利点を活用すべき

年金見込額の試算は既に「ねんきんネット」でも可能であり、「年金簡易試算Web」の設計においては「ねんきんネット」との役割分担が重要だと筆者は考える。

「ねんきんネット」と比べた「年金簡易試算Web」の最大の魅力は、事前のユーザー登録が不要な点だろう。利用開始時の負担が減ることで、「ねんきんネット」よりも多くの利用者が見込める。この観点からは、検討会で要望があった、「ねんきん定期便」に印刷されたQRコードを読み込むと「年金簡易試算

Web」を開けるようにする仕組みも、積極的に検討すべきだろう。また、ユーザー登録の負担が減るとはいえ、わざわざ同Webを開くような能動的な利用者の期待に応えるための工夫も、必要であろう\*4。

\*3 2021年6月18日に閣議決定された「**デジタル社会の実現に向けた重点計画**」(本文,p.25)に盛り込まれている。

\*4 この試算の利用は、「ねんきんネット」の利用登録はためらうが試算は行いたい場合やファイナンシャル・プランナーや金融機関へ「ねんきん定期便」を持参して相談する場合などが想定される。検討会では転職などの入力を簡素化すべきという意見も出たが、能動的な利用者を満足させるにはある程度の設定は可能とすべきだろう。また、試算条件を変更出来るだけでなく、「加入期間が増えれば年金額が増える」などの簡単な説明が表示されれば、利用者の納得感や満足感が高まると思われる。

図表2 年金簡易試算Webの利用イメージ

Step1 年金簡易試算Webを開く  
Step2 ねんきん定期便のQRコードを読み取る



Step3 (必要に応じて前提を変えて)試算  
Step4 出力されたCSVを民間アプリで読込

(資料) 年金広報検討会(2021.7.1)資料2-1より作成

図表3 年金簡易試算Webの画面案



(資料) 年金広報検討会(2021.7.1)資料2-2より抜粋